

■使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト: CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	希望のまち新築工事	BEE	0.9	BEEランク	B-	★★
------	-----------	-----	-----	--------	----	----

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [*] /満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.3 /5		ふつう
2 地球温暖化対策の推進	3.5 /5		ふつう
3 豊かな自然環境の確保	2.0 /5		がんばろう
4 高齢社会への対応	3.0 /5		ふつう

※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)	評価 凡例	よい 4 点以上		ふつう 3 点以上		がんばろう 3 点未満	
---	-------	----------------	--	-----------------	--	-------------------	--

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版	使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.02)
1 循環型社会への貢献	スコア平均 3.4
リサイクルに関する配慮 LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	長寿命化に関する配慮 Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数 スコア 3.5 Q2/ 3 対応性・更新性 スコア 3.1
<自由記述>	<自由記述>
2 地球温暖化対策の推進	スコア平均 3.6
省エネ・省資源に関する配慮 LR3/ 1 地球温暖化への配慮	節水に関する配慮 LR2/ 1.1 節水 スコア 4
<自由記述>	<自由記述>
3 豊かな自然環境の確保	スコア平均 2.0
生態系保全に関する配慮 Q3/ 1 生物環境の保全と創出	緑化に関する配慮 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 スコア 2 LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善 スコア 3
<自由記述>	<自由記述>
4 高齢社会への対応	スコア平均 3.0
バリアフリーに関する配慮 Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	主な指標 建物の外皮性能(BPI評価) 非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級 0.89 建物の一次エネルギー消費量(BEI評価) 非住宅:BEIm値、住宅: - 0.96 外構緑化指数 0 % 建物緑化指数 0 %
<自由記述>	



: 入力欄



: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.02)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	希望のまち新築工事	階数	地上4F
建設地	福岡県北九州市小倉北区神岳1丁目	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	60人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年3月 予定	評価の実施日	2024年11月25日
敷地面積	1,782 m ²	作成者	上岡祐介
建築面積	1,141 m ²	確認日	2024年12月9日
延床面積	2,903 m ²	確認者	上岡祐介

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)		2-3 大項目の評価(レーダーチャート)	
BEE = 0.9 ★★★★☆					
<p>BEE = 0.9 ★★★★☆</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★☆ B+: ★★★★ B: ★★★ B-: ★★ C: ★</p> <p>環境負荷 L</p> <p>環境効率 Q</p> <p>0 50 100</p> <p>3.0 1.5 BEE=1.0</p>		<p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★☆ 80%: ★★★★ 100%: ★★ 100%超: ☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100%</p> <p>②建築物の取組み 97%</p> <p>③上記+②以外の 97%</p> <p>④上記+ 97%</p> <p>0 46 92 138 184 (kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したもので</p>		<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア = 3.3</p> <p>音環境 3.2 温熱環境 3.0 光・視環境 3.5 空気質環境 3.8</p> <p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア = 3.1</p> <p>機能性 3.1 耐用性 3.0 対応性 3.1</p> <p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>Q3のスコア = 1.4</p> <p>生物環境 1.0 まちなみ 1.0 地域性 2.5</p>		
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア = 2.9</p> <p>建物外皮の 4.1 自然エネ 4.0 設備システ 2.2 効率的 3.0</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア = 3.5</p> <p>水資源 3.4 非再生材料の 3.5 汚染物質 3.7</p> <p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア = 3.1</p> <p>地球温暖化 3.1 地域環境 2.9 周辺環境 3.2</p>		

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>トップライトの採用により自然光を取り込みかつ、庇・カーテンによりグレア制御するよう配慮した。</p>		<p>その他</p> <p>なし</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>床（クッションフロア）天井（G Cボード） 共用部：9.061/居室部：5.261</p>		<p>Q2 サービス性能</p> <p>主要用途の上位3種の、2種以上にB以上使用、Eは不使用</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>BPI=0.89、トップライトの採用</p>		<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>水平投影面積率22.50%</p>
<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>節水機器を採用</p>		<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LCCO₂=97%</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用・改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフケイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版 希望のまち新築工事		■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.02)							
スコアシート 実施設計段階									
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									
Q1 室内環境					0.40		-	2.7	
1 音環境					3.2	0.15	3.2	1.00	3.2
1.1 室内騒音レベル					3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2 遮音					3.0	0.40	3.0	0.40	
1 開口部遮音性能					3.0	0.40	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能					3.0	0.60	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	-	3.0	0.20	
1.3 吸音	床(クッションフロア)天井(GCボード)				4.0	0.20	4.0	0.20	
2 溫熱環境					3.0	0.35	3.0	1.00	3.0
2.1 室温制御					3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温					3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能					3.0	0.25	3.0	0.43	
3 ゾーン別制御性					3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御					3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式					3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境					3.4	0.25	3.6	1.00	3.5
3.1 昼光利用					4.6	0.30	4.2	0.30	
1 昼光率	共用部: 9.061 / 居室部: 5.261				5.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口					-	-	-	-	
3 昼光利用設備	共用部: トップライト				4.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策					3.0	0.30	4.0	0.30	
1 グレア制御	カーテン・庇によりグレア制御				3.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度					3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御					3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境					3.9	0.25	3.6	1.00	3.8
4.1 発生源対策					4.0	0.50	4.0	0.63	
1 化学汚染物質	ほぼ全面にF☆☆☆☆を採用				4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気					3.0	0.30	3.0	0.38	
1 換気量					3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能					-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮					3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理					5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視					-	-	-	-	
2 喫煙の制御	非喫煙者織対策済み				5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能					-	0.30	-	-	3.1
1 機能性					2.7	0.40	4.0	1.00	3.1
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性	個室10m ² 以上				-	-	5.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応					-	-	-	-	
3 パリアフリー計画					3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性					1.0	0.30	2.5	0.40	
1 広さ感・景観	天井高2.5m以上				-	-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース					-	-	-	-	
3 内装計画					1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理					4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	内壁面は防汚性の高い建材を採用、他6項目				4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保	清掃用資材を保管するスペースを計画している、他7項目				4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性					3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能					3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					3.5	0.30	-	-	
1 車体材料の耐用年数					3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床・壁・天井20年				4.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	主要用途の上位3種の、2種以上にB以上使用、Eは不使用				3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性					2.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備					3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備					2.0	0.20	-	-	
3 電気設備					3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法					3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備					2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり	3.1	0.30	3.2	1.00	3.1
	1 階高のゆとり	3.4	0.30	3.4	0.50	
	2 空間の形状・自由さ	3.0	0.60	3.0	0.60	
	0.1≤0.27 <0.3	4.0	0.40	4.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり	3.0	0.30	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性	3.0	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)	5 設備機器の更新性	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	3.0	0.20	-	-	
	-	-	0.30	-	-	1.4
	1 生物環境の保全と創出	-	1.0	0.30	-	1.0
	2 まちなみ・景観への配慮	-	1.0	0.40	-	1.0
	3 地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性	-	-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー	-	0.40	-	-	-	2.9
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI=0.89	4.1	0.20	-	-	4.1
2 自然エネルギー利用	トップライト	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化	-	2.2	0.50	-	-	2.2
4 効率的運用	-	3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価	-	3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル	-	0.30	-	-	-	3.5
1 水資源保護	-	3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水	節水機器を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用	-	3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
2 雜排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減	-	3.5	0.60	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減	-	2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	エコウッド・フロアリューム	4.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	PB+LGS、フリーフロア	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避	-	3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避	-	4.0	0.70	-	-	
1 消火剤	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	グラスワール・吹付ウレタン	5.0	0.50	-	-	
3 冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境	-	0.30	-	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮	LCCO2=97%	3.1	0.33	-	-	3.1
2 地域環境への配慮	-	2.9	0.33	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止	-	3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	-	3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制	-	2.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
2 污水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	-	2.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮	-	3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止	-	3.0	0.40	-	-	
1 騒音	-	3.0	1.00	-	-	
2 振動	-	-	-	-	-	
3 悪臭	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制	-	3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制	-	4.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制	光害チェックリストの過半を満たし、広告物照明はない	4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	5.0	0.70	-	-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2016年版

希望のまち新築工事

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-			-	-	-								
1.3.1 維持管理に配慮した設計	6.0		O	O	O	-	-	O	-	O	-	O			
1.3.2 維持管理用機能の確保	7.0		-	O	O	O	O	O	-	-	O	-	O	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-		O	-	-	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	O	-	-	-	-	-	-						
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	O	-	-	O	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	1.0		-	-	O	-	-	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
2 まちなみ・景観への配慮	-		-	-	-	-	-	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	3.0		-	-	1.0	1.0	-	1.0	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	5.0		-	-	2.0	-	1.0	-	-	1.0	1.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	1.0		-	O	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雜排水等再利用システム導入の有無	-		-		-										
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-										
2.3 車体材料におけるリサイクル材の使用	-		-	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		O	-	O	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	6.0		1.0	-	1.0	3.0	-	-	-	-	1.0	-			
2.3.3 交通負荷抑制	1.0		-	-	-	1.0	-	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		-	1.0	1.0	1.0		-	-	-					
3.2.2 砂塵の抑制	-		-												
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η)	-
U値(W/m ² K)		窓システム	屋根
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	η AC
昼光率	0.0%		η AH

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 車体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

3 設備システムの高効率化

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 車体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

執務スペース	.0m ² /人	病床	.0m ² /床	シングル	.0m ² ツイン	.0m ²
コンセント容量	0.0 VVA/m ²					
天井高	2.5 m					
リフレッシュスペース	%	レストスペース %				
想定耐用年数	0 年					
想定必要間隔	0 年					
想定必要間隔	20 年					
想定必要間隔	0 年					
階高	0 m					
壁長さ比率	27.0					
床荷重	- N/m ²					

外構緑化指数	#DIV/0!	建物緑化指数	0%
空地率	20%	水平投影面積率	0% 地表面対策面積率

対象外	相当
自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年m ²
採光を満たす教室数	0.0% 採光を満たす住戸数

通風を満たす教室数	0.0% 通風を満たす住戸数
-----------	----------------

BPI/BPI _m	0.89	断熱等性能等級	対象外
自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年m ²	採光を満たす教室数	0.0% 採光を満たす住戸数

太陽光	.0kW	太陽熱等	.0kW
蓄電池	.0kW		

雨水利用率	0.0%
特定調達品目	エコウッド(ウッドラエコマーク商品 フロアリューム(床自治体指定の特定品目等

使用比率	0.0%
------	------

オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)
---------------	--------------

オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	0
---------------	---	--------------	---

オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)
---------------	--------------

見付面積比	#DIV/0!	隣棟間隔指標Rw	-
地表面対策面積率	0.0%	屋根表面対策面積率	#DIV/0!
見付面積Sb	m ²	卓越風向と直交する最大敷地幅Ws	0 m

基準高さHb	0 m
--------	-----

緑地	m ²	水面	m ²	保水性対策面	m ²	高反射対策面	m ²	再帰性反射対策面	m ²
----	----------------	----	----------------	--------	----------------	--------	----------------	----------	----------------